



「ICTを活用した確かな学力育成事業」モデル校指定

高等学校 附属中学校における ICT 機器を活用した授業

本校が平成26年度長野県教育委員会による「情報通信技術(ICT)を活用した確かな学力育成事業」のモデル校に指定されました。タブレット端末、大型電子黒板、書画カメラが新たに配備され、本校図書館にタブレット端末とインターネットを結ぶ専用無線LAN環境を整備しました。附属中学校では、新校舎竣工と同時に普通教室の黒板上部に電子黒板機能内蔵プロジェクターが整備され、特別教室用には移動可能な電子黒板が配置されて活用されています。

【高等学校の取組み】

高等学校では平成22年度SSH事業で導入した液晶テレビ型電子黒板を、数学科や地歴公民科で活用しています。例えば関数の授業において電子黒板上に三次元以上の空間のシュミレーションを投影したり、画像の上に解説を書き込むことで生徒の理解を深化させることに役立っています。地歴公民科では資料画像・動画を映写に活用しています。新たにICT機器が整備された図書館では、1,2年生SSH情報の課題研究中間発表において電子黒板を活用し、タブレット端末を活用した授業も研究しています。今後、電子黒板とタブレット端末をリンクさせて原稿を生徒同士で共有させたり、一人ひとりがタブレットを活用して資料をインターネット上で検索したり、本棚の間をタブレットを持ち歩きながら図書館所蔵の書籍を自在に検索して目的の書籍を探し当てさせることで検索効率を高めて、資料を読み解く時間を確保することに活用したいと考えています。



10/17(金)長野県高等学校図書館協議会の中信地区の先生方へ、図書館電子黒板を利用したSSH情報探究発表とタブレット端末を公開しました

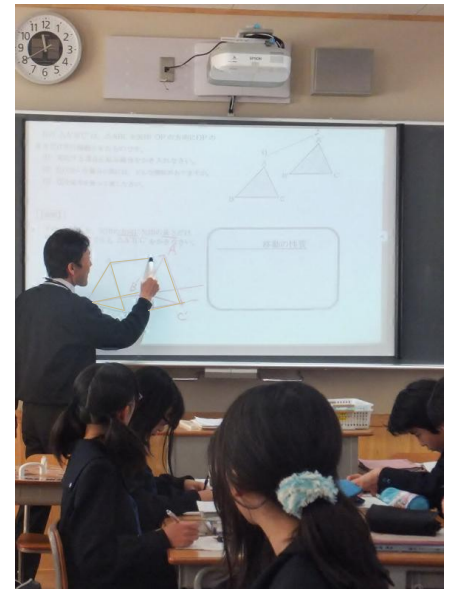
【中学校の取組み】

附属中学校では、日常的に電子黒板が活用されています。

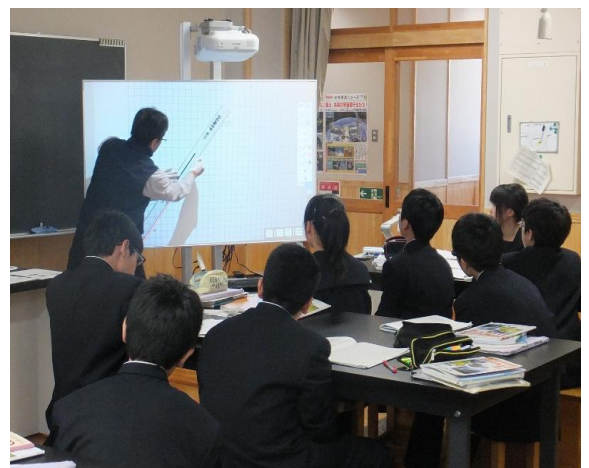
理科の実験授業においては、生徒が行った実験のデータやそのグラフを書画カメラで直ちに電子黒板に拡大表示してデータを生徒全員で共有します。教師が表示された画像の上に電子ペンで直接解説や生徒の意見を書き込むことで、共有したデータから課題を見出し、話し合いながら課題を解決する授業を展開することに利用しています。また、実験をするうえで、特に注意しなくてはならないポイントなどを拡大表示することによって、安全で目的意識が明確な実験が行え、大変役立っています。

数学科では、比例などのグラフや作図をする授業において、生徒に配布した資料(生徒が書き込んだもの)を直接全員で見ることで、黒板に転記する時間が短縮されるとともに、生徒の意識も途切れない授業に有効活用しています。

その他の教科でも、書画カメラで資料を提示したり、仲間の考えを発表したりして、授業時間を効率的に使い「個の考え」の良さを全体に広げながら授業することに活用しています。また、学級活動においても、朝や帰りの短い学活で、翌日の行事等の日課など全体で確認すべきことを電子黒板で一斉提示して確認するなど、一日の生活の中でなくてはならない存在になりつつあります。



数学：図形を含む問題を書画カメラで撮影したものを電子黒板に表示し直接解法を電子ペンで書き込んでいます(据付型電子黒板)。



理科：実験で各班が書いたグラフを拡大表示して全員で結果を検討しています。直接ボードに電子ペンと直定規で予想されるグラフを書き込むことも可能です(移動可能型電子黒板)。